

針の木大雪渓

高山植物とスキー

'84.7.7~8

M.石垣隆宣(L), 菅沼博
高野真砂子, 西川克之

昨年の7月乗鞍で7月のスキーにはビリオドを打ったつもりだったが、一年が過ぎるとそんなことはコロッと忘れて、石垣さんから誘われてまた針の木大雪渓を滑ることになってしまった。

前夜新宿西口に集合し、車で出発した。途中のS.A.で仮眠し扇沢駅に着く。大沢小屋への山道ではなく、竜川沿いの道を登る。三つ程エンティを越え左折で道はなくなり大沢小屋の下で左岸へ渡る。先行したパーティーは右岸をそのまま登り雪渓の末端へ出たようだ。沢を渡るとすぐた雪渓の末端で幕営地になっている。すぐにテントを張り身軽になって出発する。

雪渓末端でアイセンをつけた。これは楽だった。3ピッチで針の木峰についた。途中マヤクボ上部の急斜面が幅3m程で狭いがあとは広い斜面だ。僕を除く3人は針の木岳を往復し、僕は小屋の陽向でトカゲを洗めこむ。

3時過ぎに雨が降り出し3人の帰る時間が気になる。待つこと小1時間、雨の中をカッパも着ずに帰ってきた。

小屋で雨具を着、ガスの針の木峰から滑り始める。150cm程に切った板を使ってい3石垣氏はいつも通り快調に滑って行く。ハナから波だらけの雪渓で滑りづらい。最狭部を慎重に下り広い斜面へ出た。そこは

波々々々の雪渓で滑りを楽しむのは程遠い。石垣氏は先週の大津沢の方が快適だとしきりに言ってくれる。

高野さんの調査が今一歩でなかなかおりこない。傾斜がゆるくなると今度は雪渓上の石コロが気になる。良さそうな斜面をひろいひろいしながらテントを下る。下部では雨はあがっており、吹きあうしの风だけがやたら強い。

雪渓はとても快適とは言えなかつたが、テントの中は快適でおいしいご飯とおいしいお酒で大満足、大満腹。翌日はマヤ塗へ3人で登る予定だったが、夜半から大雨は登る気をなくしてしまうのに充分だったようだ。

翌日は雪なのでゆっくり起き、ゆっくり食べ、ゆっくり出発する。帰りは大沢小屋の前から山道を扇沢へ下る。ひどい雨だった。

タイム：登り3時間、下り1時間 (菅沼)



大雪渓中央部を滑る西川氏